

Q₂.

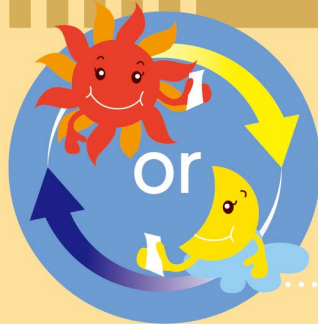
貼り薬の使い方は？

A2.

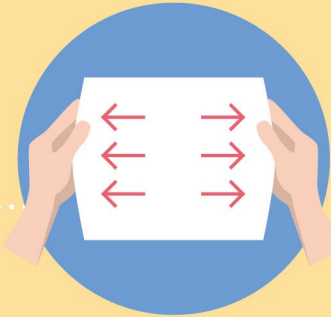


① 1日1回または2回
貼りかえます。

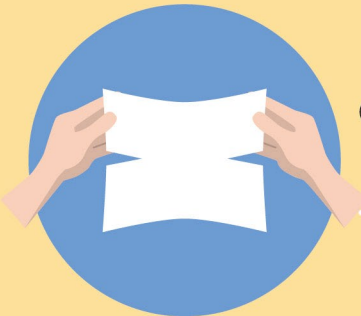
※使用回数は、医師とご相談のうえ
ご使用ください



② 患部を覆うように
貼りましょう。



③ 関節部に貼る際は切り
込みを入れること
もできます。



④ 汗をかいている場合
はきれいに拭き取っ
てから貼りましょう。



『変形性膝関節症』

膝関節には日常生活動作でも体重の約7倍もの荷重がかかるとされており、膝を深く曲げたり、飛び跳ねたりすると更に負荷が大きくなります。日本人は元々O脚気味の人が多いためか、外側より内側の変形性関節症が圧倒的に多く90%以上が内側型です。病気が進行し内側の軟骨が消失するとO脚は進行し、体重はますます内側にかかるようになり、病気の進行が早まります。変形性関節症では関節周囲の組織が硬くなり、これが痛みや関節が動かしにくくなる原因となります。痛みは動作開始時痛が特徴ですが、進行すると長く歩いた後や深く曲げたときの痛みも強くなります。治療には、体重を減量する、正座・しゃがみ込み・階段昇降をしない、大腿四頭筋の筋力強化運動（足首に重りをつけ椅子に座って膝を伸ばし10秒間静止しておろす運動）やストレッチをする、消炎鎮痛薬の外用薬（貼付薬や軟膏）やヒアルロン酸の関節内注射を使う、などが有用です。O脚の著しい人は、外側が高くなった斜めの足底板を使うと、荷重が外側に移動して症状が軽減し、O脚の進行を遅らせることができます。



（福島県立医科大学外傷学講座 教授 松下 隆）

貼

り

薬

の

Q & A

監修：福島県立医科大学外傷学講座 教授
松下 隆 先生



三笠製薬株式会社

<http://www.mikasaseiyaku.co.jp>

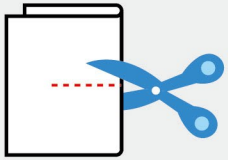
Q1.

可動部位への貼り方は？

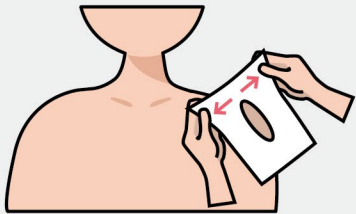
かた、くび、ひじ、ひざ、足首などの可動部位には、下図のようにはさみで切り込みを入れることもできます。



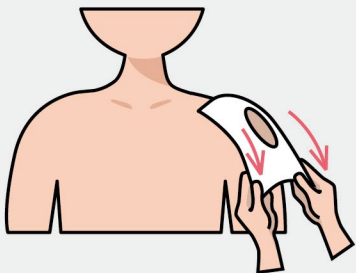
かたの場合 SHOULDER



①2つに折り、中央に2～3cmの切り込みを入れる。

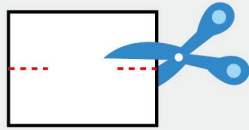


②切り込みを入れた部分から上半分をかたに貼る。



③患部を覆うように下半分を貼り、最後に全体を押さえて密着させる。

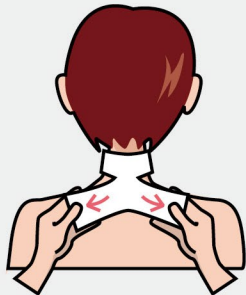
くびの場合 NECK



①ヨコに2カ所に2～3cmの切り込みを入れる。

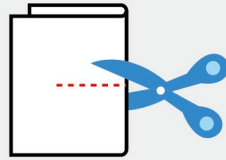


②切り込みを入れた部分から上半分をくびに貼る。

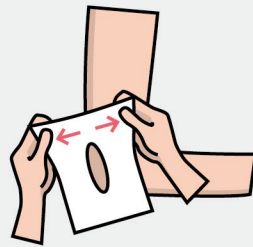


③患部を覆うように下半分を貼り、最後に全体を押さえて密着させる。

ひじの場合 ELBOW



①2つに折り、中央に2～3cmの切り込みを入れる。

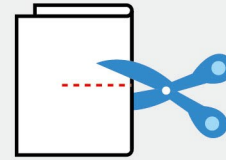


②切り込みを入れた部分から上半分をひじの上部に貼る。



③患部を覆うように下半分を貼り、最後に全体を押さえて密着させる。

ひざの場合 KNEE



①2つに折り、中央に2～3cmの切り込みを入れる。

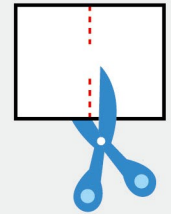


②切り込みを入れた部分から上半分をひざ頭の上部に貼る。

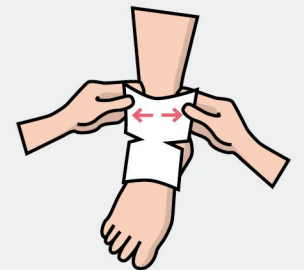


③患部を覆うように下半分を貼り、最後に全体を押さえて密着させる。

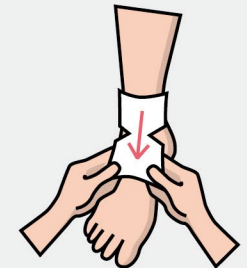
足首の場合 FOOT



①タテに2カ所に2～3cmの切り込みを入れる。



②切れ目を足首の曲がる部分に合わせて押さえ、患部を覆うように上半分を貼る。



③患部を覆うように下半分を貼り、最後に全体を押さえて密着させる。